
[成果情報名] ビール大麦新品種候補「九州二条 16 号」の早播適応性

[要約] ビール大麦新品種「九州二条 16 号」は早播適応性があり、11 月 4 半旬からの播種が可能で、これまでより 10 日程度早播できる。また、12 月 15 日の晩播でも、収量を確保でき、外観品質、検査等級も優れる。

[キーワード] ビール大麦、早播適応性、遅播、播種適期

[担当部署] 農産部・麦類育種チーム

[連絡先] 092-924-2937

[対象作目] 麦

[専門項目] 栽培

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

近年育成されたビール大麦「九州二条16号」は側面裂皮粒や凸腹粒等の発生が極めて少ない被害粒耐性の品種である。これまでビール大麦については、早播すると側面裂皮粒の発生が多くなることから、播種適期は11月25日～12月5日とされている。「九州二条16号」は側面裂皮粒発生に耐性があるため、早播適応性が高く、早播することにより成熟期も早まり、登熟期の雨害や赤かび病を回避することができると考えられる。

そこで、本系統の早播適応性を検討して安定多収栽培法を明らかにした。また、大豆を栽培している農家からは大豆後作での栽培や大豆収穫作業との競合などから、12月中旬の晩播を望まれていることもあり、晩播での適応性についても検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 「九州二条16号」は早播しても被害粒の発生は少ないが、極早播(11月7～8日)すると整粒歩合が低くなり、容積重が低下し、整粒重が早播(11月14～16日)より少なくなる。早播(11月14～16日)では整粒重も多く、被害粒の発生も少なく、検査等級、麦芽品質も優れる。このことから、11月7～8日以降の播種が可能で、これまでのビール大麦の播種適期より10日程度早めることができる(表1、図1)。

2. 晩播した場合、「九州二条16号」の整粒重は「アサカゴールド」の標準播(11月26～29日)と同程度で、被害粒の発生は少なく、検査等級も優れる(表1、図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. これまでより10日程度早播ができ、播種適期幅の拡大が可能である。

[具体的データ]

表 1 播種期別の生育特性と収量関連形質

播種期	品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	容積重 (g)	整粒 千粒重 (g)	整粒 歩合 (%)	収量 (kg/10a)	同左 標準 等級 比	検査 等級	麦芽品質 総合評点 (点)
極早播 (11月7 ~8日)	九州二条16号	3.27	5.13	577 a	1.0 a	711 a	41.7 c	84.3 a	337 ab	109	7.4	86.8 b
	ニシノゴールド	3.28	5.14	546 a	0.9 a	704 a	34.9 a	85.2 a	302 a	97	8.5	84.0 ab
	アサカゴールド	3.28	5.15	554 a	1.1 a	707 a	37.2 b	87.4 a	349 ab	113	7.4	70.5 a
	ほうしゅん	3.27	5.12	550 a	1.7 a	696 a	37.8 b	90.7 a	358 b	115	8.0	78.8 ab
早播 (11月14 ~16日)	九州二条16号	4.01	5.15	619 ab	0.9 a	722 b	41.9 c	88.2 b	371 b	119	6.5	84.3 a
	ニシノゴールド	4.03	5.16	575 a	0.9 a	709 ab	34.8 a	81.9 a	290 a	94	7.3	83.9 a
	アサカゴールド	4.03	5.17	543 ab	1.4 a	721 b	37.7 b	90.2 b	372 b	120	7.9	71.7 a
	ほうしゅん	4.01	5.15	632 b	1.8 a	693 a	37.6 b	87.4 b	374 b	120	7.8	88.0 a
標準播 (11月26 ~29日)	九州二条16号	4.07	5.20	432 a	0.0 a	721 a	44.4 d	94.3 a	323 ab	104	6.9	77.8 a
	ニシノゴールド	4.09	5.21	454 a	0.0 a	706 a	37.4 a	91.8 a	265 a	85	7.6	88.4 a
	アサカゴールド	4.08	5.21	415 a	0.0 a	721 a	41.8 c	94.4 a	310 ab	100	7.5	79.6 a
	ほうしゅん	4.06	5.19	496 a	0.0 a	702 a	40.5 b	95.1 a	361 b	116	8.3	81.4 a
晩播 (12月15 日)	九州二条16号	4.14	5.22	505	0.0	703	43.6	85.0	323	99	7.0	-
	ニシノゴールド	4.15	5.23	365	0.0	707	39.3	90.0	276	85	10.0	-
	アサカゴールド	4.14	5.23	430	0.0	699	36.3	85.0	274	84	7.5	-
	ほうしゅん	4.13	5.22	476	0.0	688	38.6	93.0	355	109	10.0	-

注) 1. 極早播早播、標準播の値は、2000~2003年度の4カ年の平均値。ただし、ほうしゅんは2001~2003年度の3カ年の平均。晩播は2003年度の1カ年のみ。
 2. 播種量は極早播:100本/m²、早播:150本/m²、標準播:150本/m²、晩播:200本/m²
 3. 施肥量(N成分kg/a): 基肥0.6+追肥0.3
 4. 倒伏程度は0=無、1=微、2=少、3=中、4=多、5=甚。
 5. 整粒千粒重は無水換算値、子実重、整粒重は水分12.5%換算値。
 6. 同左標準比は標準播の「アサカゴールド」の収量を100とした場合の比。
 7. 検査等級: 1=1等上、2=1等中、3=1等下、4=2等上、5=2等中、6=2等下、7=等外上上、8=等外上中、9=等外上下、10=不適
 8. 各平均値に付けた同一英文字間には、播種期別でTUKEYの多重検定で5%水準で有意差がないことを示す。

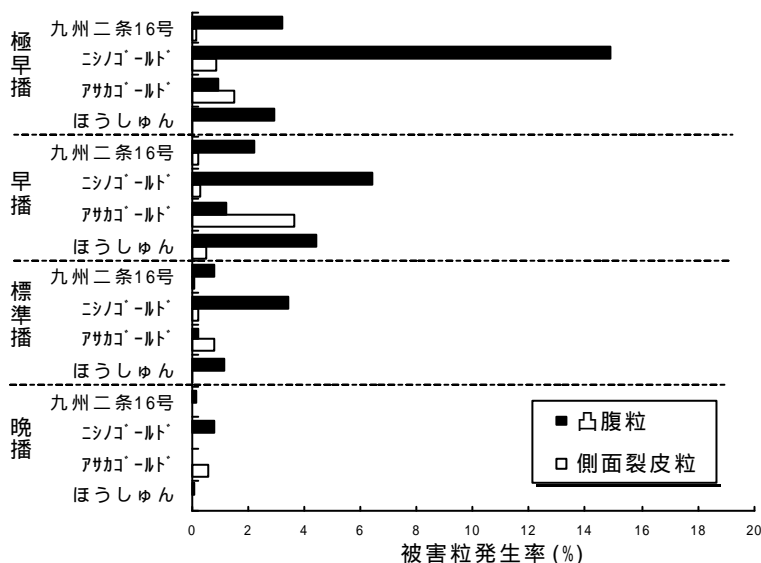


図1 播種期別の被害粒発生率

[その他]

研究課題名: 高醸造適性・多収・耐病性品種の育成

予算区分: 指定試験

研究期間: 平成15年度(平成12~15年)

研究担当者: 塚崎守啓、山口 修、内村要介、古庄雅彦